北海道情報大学総会及び講演会（2024.8.17開催）

北海道情報大学同窓会

蒼天会会報 Vol.22

発行：2024年12月

変化し続ける情報メディア学部

情報メディア学部長

岡田 茂

情報メディア学部は2001年に設立され、本年で24年目を向かえました。設立以降、時代の流れに応じて変化を続けていますが、一貫して持ち続ける思いは、「デザインのわかるエンジニア」と「テクノロジーのわかるクリエイター」の育成です。さらに、人に寄り添い、人のために情報を伝え、モノ・コトを創りだすことのできる人材を育てることを目指しています。

学生たちは、さまざまなプロジェクトを通して実践的にモノやコトを創り出す経験を積んでいます。企業や自治体とのプロジェクトを通じて地域社会の課題に取り組むことで、学生は大きく成長しています。また、個々の研究成果を学会で発表する機会もつくり、さらなる成長の場となっています。

さて、冒頭に「変化を続けています」と述べましたが、その一例をご紹介します。皆様が在学していた頃、1、2年次の担任は教養科目の教員が、3、4年次のゼミは専門科目の教員が担当していたことを覚えていらっしゃるでしょうか。情報メディア学科では昨年度から、全教員が担任とゼミの両方を担当する体制に変更しました。1,2年生の担任は複数教員（3～4人）で一クラスを担当しています。これにより、1年生から4年生までの学生の状況を教員全員で共有し、より密接な指導ができるようになりました。学生一人ひとりに寄り添った教育を提供することが、これからの教育現場ではますます重要になっていくと考えています。

一方で、私たちを取り巻く社会は急速に変化しています。異常気象が「異常」ではなく日常となり、私たちの生活や仕事のスタイルも変革を求められています。生成AIの進化によって、これまでの常識が次々と覆され、働き方や産業構造が大きく変わっていくことでしょう。教育も柔軟に変わっていかなければなりません。Society 5.0、デジタルトランスフォーメーション（DX）、持続可能な開発目標（SDGs）といった大きな社会変革に対応し、未来を見据えた教育を実現していかなければいけません。

情報メディア学部は、これからも新しい時代にふさわしい教育を提供し、学生たちが社会に貢献できる人材として成長できる環境を整えてまいります。これまで同窓生の皆様が築いてくださった基盤に感謝するとともに、その価値をさらに高めていくために努力を続けてまいります。

同窓会の皆様の支援は、私たちにとって大きな力となっていることはいうまでもありません。これからも引き続きご協力を賜り、情報メディア学部がさらに発展できるよう、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

成長が加速した場所

八重原　史貴さん

システム情報学科2020年3月卒業

はじめまして。経営情報学部システム情報学科を卒業した八重原史貴と申します。卒業後は、本学職員として勤務し、今期より同窓会役員を務めさせていただくことになりました。

まさか私が本学で働くとは入学時には思ってもいませんでした。

現在は教務課を経て、入試広報室 広報課で主に高校生に対して入学に向けた広報活動を行っています。

入学当時は「情報」にはまったく興味はなく、当時の夢であった教員になることしか考えていませんでした。スポーツしか取り組んできていなかった私には講義内容はとても難しかったですが、プログラミングや宇宙情報等、これまでに知らない分野に触れていくことで「情報」というものに魅了されていきました。さらに渡部先生（現副学長）のゼミに所属したことで貴重な経験を積むことができ、現在の業務において非常に役に立っています。

大学では多くの人と関われたことが貴重な経験となっています。貴重な繋がりを作るきっかけを与えてくれた本学に感謝しています。

いつになっても、教職員の方々、友人、先輩後輩に感謝していますし、過ごした時間は財産といえます。次は母校の職員として私が次の世代に繋いでいく役目だと思っています。

今は大学職員として大学の発展と後人育成に携われることは非常に嬉しく思っており、働くうえで大きなモチベーションとなっています。学生でもあり、大切な後輩にもあたります。繋がりが途絶えず続いていければいいなと常日頃思っています。

大学はこれまでの小・中・高とは違い、最も成長が加速する場であり、知識、技術、応用力、そして生きる力を飛躍的に伸ばせる可能性を秘めていると思っています。本学の学生は力を持っているにも関わらず少し恥ずかしがり屋な面もありますので、プロジェクトや何かしらの交流を通して成長するきっかけを教職員はもちろんですが、可愛い後輩たちのために同窓生の皆様からも与えていただけないでしょうか。

また、本学は同窓生の皆様の在籍時と変化している部分が多くあるかと思います。木板に代わった体育館、少しオシャレになったカフェっぽいラウンジや拡充された図書館等多くありますので、良ければお立ち寄りください。懐かしの教職員に会いに来ていただけると嬉しいです。

同窓生の皆様には日頃より本学の教育活動に多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。引き続きご協力いただきたくお願い申し上げます。

TOPICS

新たに新任役員を迎えました。

今期、新たに新任役員を2名迎え入れ、本部13名、東京支部5名、上は1期生から28期生の新体制を新スタートいたしました。同窓会は、在学生・卒業生の架け橋となるべく、世代を超えて活発に活動し、発展させていきます。新規役員の方に今回一筆お願いしましたので、ぜひご拝読ください。

「総会・講演会・懇親会開催」（2024.8.17）

3年に一度開催しております総会が、コロナ禍での中止を経て、6年振りに開催いたしました。今回は、ゲストにチームナックスのリーダー・森崎博之さんとオクラホマ・河野真也さんを迎え、西平学長と「生きることは食べること」と題してトークイベントを行い、笑いあり、納得ありの豊かなひと時となりました。懇親会では、久しぶりに会食を交えて笑顔と談話が行きかう様子が見られ、世代を超えた卒業生間の交流の場となり、大変有意義な時間となりました。また、今回の講演会・懇親会は会員のご家族も参加いただける形とし、良かった・楽しかったという感想が多く寄せられました。

3年後の総会には、より多くの会員のご参加をお待ちしております!

「大学との意見交換会」開催報告（2024.10.12）

西平学長と木村同窓会長のファシリテートによる意見交換会が行われました。学修環境整備の構想の共有、学生とOBOGの交流イベントに関する意見交換、本学学生が地域・社会に求められている技術や資質等、多岐にわたって今後の大学や本会の可能性について話し合いが行われ、大変有意義な時間となりました。

意見交換会終了後、大学から支援協力の依頼がありました「北海道情報大学教育研究振興募金」の寄付について、木村会長から学長へ目録を渡しましたことを、この場をお借りして会員の皆様に報告いたします。

オールHIU

羽山　正将さん

先端経営学科2016年3月卒業

① 役員着任のご挨拶

初めまして。2024年度より同窓会役員に着任いたしました、2016年3月に先端経営学科卒業の24期生の羽山と申します。僕は蒼天会を老若男女問わず、卒業生及び在学生の皆様にとって大切な場であると考えております。もっとこの場を皆様にとって身近な場所と感じていただき、皆が寄り添いあって高めあっていくそんな"きっかけ"の作れる会としたく思います。皆様のお力添えあっての同窓会です。皆様のお力を借りながら、より良い場を作れるよう、これから尽力させていただきます。

② 総会報告

8月17日に行われました同窓会総会、まだまだ胸を張って報告のできる立場ではありませんが、まずは在学生に厚い支援ができる存在になりたいと感じました。我々の支援として、在学生共通の目標である「就職」というところに強く着目したく思います。これから手探りにはなりますが、在学生にとって「どういったことが求められるのか」という点を深く考え、そういった企画を1つでも多く開催し、1人でも多くの在学生が素敵なお仕事に就けるよう、支援させていただきたいと感じております。そしてその支える側、支えられた側がその時々の記憶を思い出して、蒼天会のファンになっていただき、より後世に多くの支援ができる、そんな会を目指していきたく思います。

③ 同窓生や在学生に向けて

是非同窓生及び在学生の方には、蒼天会の活動に少しでも関わりを持っていただけると嬉しいです。同窓生同士の繋がりはほぼ無限大にあり、新しい自分を見つける良い機会になります。在学生は同窓生と繋がりを持つことで、社会との繋がりを少しでも作ることができ、自分の味方になってくれる社会のアドバイザーはとても貴重な存在で、皆さんの就職活動の手助けにもなるはずです。新たな出会いがある蒼天会の活動は、皆さんの生活にちょっとした発見や刺激にもなると思います。自分にとって「ホーム」となる環境での、こういった出会いの場は貴重な機会かと思いますので、前向きにご参加いただけると幸いです。

④ 恩師に向けて

自分がどうあるべきか。自分の迷いに親身になって向き合っていただいた栗山先生に大変感謝しております。会社員か教員の2択に迫られたとき、「マネージャーの次はティーチャーだよ」とアドバイス頂いたことは今でも忘れません。教員だけがティーチャーではなく、組織に属する限りは、誰かに何かを教え、伝えて成長していく姿を見守ることは当たり前のようにあります。この言葉のお陰で僕は「営業」と「ティーチャー」のそれぞれ分野で今は力を発揮できていると思います。また、もう1つのやりたかった仕事は、気が付いたら僕のお客様になっていました。栗山先生やお客様とのご縁、とても不思議に感じています。人との繋がりや長く続けることの面白さを日々楽しんでいます。次は僕が誰かを導けるよう、蒼天会役員として邁進して参ります。

蒼天祭を終えて

学生実行委員会　委員長

塚本　暉規さん

医療情報学部 医療情報学科3年

第36回蒼天祭を10月12日、13日に開催しました。今年も多くの方にご参加いただき、大変盛況なイベントとなりました。ご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様にお礼申し上げます。今年は幸いにも両日ともに良好な天候に恵まれ、無事に蒼天祭を終えることができました。

第36回蒼天祭は「気炎万丈」のテーマのもと、盛り上がる蒼天祭を目指し、準備を進めてまいりました。例年の基盤から更に盛り上がるための創意工夫を施してきました。

今年は規模拡大を目指しました。ここ数年で最大規模の出展、学生実行委員会で最大限活動できる企画数、視覚的に楽しめるための装飾など、年々規模を拡大させています。コロナ禍の影響を受け、一から立て直しとなった部分もありますが、新たな企画も織り交ぜながら、蒼天祭の充実を図りました。

特に印象深かったのは出展です。昨年使用しなかった中庭を使用し、大学全体が蒼天祭の雰囲気に包まれていました。また、出展の人気投票を行い、出展者、参加者共に楽しんでいただけたかなと思います。今年は50を超える団体に出展していただき、本学の学生が時間をかけて準備した多くのコンテンツを楽しんでいただけたのではないでしょうか。

ご家族を対象とした催事企画も沢山の方々にご参加いただきました。スタンプを押して、景品と交換できるスタンプラリー、引換券と交換することで射的やヨーヨーすくいができる縁日など、数年前に行われていた催事企画もブラッシュアップして行いました。

更に、体育館でステージ企画を行いました。特に、2日目のビンゴ大会は体育館を埋め尽くすほどの大盛況となりました。サークルや有志発表など、多くの方にご参加いただきました。2日目最後には花火の打ち上げを行い、蒼天祭を締めくくることができました。

改めて、蒼天祭を開催するにあたり、ご参加いただいた皆様、蒼天祭に携わってくださった全ての方々にお礼申し上げます。学生実行委員会一同「基盤からの新たな挑戦」として、ビンゴ大会にてwebで番号が確認できたり、催事企画としてご家族対象にスタンプラリーや屋台を企画したり、蒼天祭の準備、片付け方法の改善などを行ったりしました。今後もこれまでの改善、改良を行いつつ、新たな挑戦を行い大学を盛り上げて参りますので、今後ともご支援の程、宜しくお願いいたします。